

議事概要

会議の名称	令和7年度第1回三田市総合教育会議
開催の日時	令和8年3月26日（金）15時30分～17時17分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階庁議室
出席した委員 の氏名	田村克也市長、加嶋幸彦教育長、大野裕己教育委員、三木尚美教育委員、 ルーベッシュ裕子教育委員、中野文雄教育委員
出席した職員 の職及び氏名	〈事務局〉 山本学校教育部長、井上(久)学校教育部次長、久保学校教育部次長、上野学校再編 課長、井上(尚)教育総務課長、斉藤教育総務課副課長、三輪教育総務課主幹、松本 子ども・未来部長、上島子ども・未来部次長、神影幼児教育振興課長、近江子ども 政策課長、山田子ども政策課主任、谷本子ども政策課職員
傍聴人の人数	7名
議題	(1) 三田市教育委員会 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について (2) 学校再編に関する学校運営協議会等での説明等について
公開・非公開 の区分	公開
使用した資料	本日の次第、座席表、出席者名簿 【資料1】三田市教育委員会 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について 【資料2】学校再編に関する学校運営協議会等での説明等について
連絡先	子ども・未来部 子ども政策課 電話 (079) 559-5079

会議経過

1. 開会

【上島次長の司会により開会、配付資料の確認等】

【傍聴者 7 名】

【議事進行を田村市長に交代】

【市長挨拶】

2. 議事

(1) 三田市教育委員会 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について

(久保学校教育部次長から説明) … 資料 1

田村市長： 質問や意見、確認することがありましたらお願いします。

加嶋教育長：この実施計画は先生方にとって、学校が働きがいのある学校づくりを推進することが根底にあり、教育委員会で計画を作成しました。まず計画を実施するにあたって、教育委員会が学校とタッグを組んで丁寧な対応をしてまいりたいと思っています。私からの提案になりますが、学校の様子や先生方の仕事の状況を見る機会があったと思いますので、そのことを踏まえて、教育委員の皆さんから計画についてお気づきの点がありましたら、ご意見や考えをよろしくお願いします。

中野教育委員：学校を訪問させていただいたり、いろいろな行事に参加させていただいたりして、校内の先生方と話をする中で、学校が組織としていろんな仕事の分野を丁寧に分けているというか、組織的に取り組もうとするような部分が多くなってきたと思います。いわゆるチームで仕事をする。一人ですべてを任されるのではなく、学校の組織のあり方というのもこの数字に影響してきているのかなと思います。若手の先生がどんどん増えてきている中で、先生方の資質向上やいろんな勤務の内容に関して、学年やベテランの先生とチームを組むことで育成していく。それも一つの数字に表れてくるものではないかと思います。一人で抱えて遅くまで悩んで対応するというよりも、早期の段階で分け合って対応していく。責任をみんなで分担することによる生きがい、働きがい、仕事への楽しさ、何か物事を1つ乗り越えるための楽しさもあると学校から話をよく聞いています。事務局に数字の説明をいただきましたが、例えば月平均30時間に減ってきた取り組みの成果を教えていただければ嬉しく思います。そういうことがあって、私たちが見てくる学校と多分つながってくると思いますので。

田村市長：今、中野委員から質問がありました確認という意味で、数字を出してもらっている部分での成果を事務局から説明をお願いします。

久保学校教育部長：減ってきた大きな一つのきっかけはコロナだったと感じています。そこで一気に働き方改革が進んだと捉えています。ICT機器の導入や市費職員スクールサポートスタッフの配置など、学校の先生が学校の先生にしかできない仕事に注力できるように、学校の先生以外の方でもできる仕事はできるだけスクールサポートスタッフや地域ボランティアの方をお願いします、そういった環境がだんだん整ってきたのかなと感じています。これはひとえに学校長のリーダーシップ、学校の先生方の意識改革、地域や保護者の理解があって、ここまで順調に減ってきていると思います。周りの理解がないと学校だけが進めようとしてもなかなか進まないことがありますので、本当に地域や保護者のご協力があったることと感じています。

中野教育委員：その一つの表れとして、令和6年度に30時間55分まで減ってきている。何かをしたから急に減るのではなくて、やはりそういう地道な取り組みというのは大事であって、今、事務局がおっしゃったように、教師はしっかりとこどもに向き合う時間をどう確保していくか。さまざまな仕事は学校にはありますが、それらをどのようにうまく整理していくかということが、いわゆる目標に近づいてくる1つの方向になっているのかなと思いました。いろんな専門のスタッフを配置されていますし、その部分を学校と教育委員会とで一緒に考えていくという大事な方向が、今の成果の中に見えてきているような気がしました。

大野教育委員：中野委員がおっしゃられた「学校は組織、チームになるという方向で、個業になりやすい先生方に少しアプローチがかかっている」というのが大事なところだと思っています。学校訪問に行かせていただく中で、その意味で新しいステージに入ってきているように思います。学校それぞれで環境は違いますが、その中で一日の時間の使い方とか、就業時間を密にするとか、この辺りの工夫を聞かせていただいて、先生方にメリハリある、一日の授業が終わり、さらに研修とか、そういったことができるような時間の確保を行って、勤務時間内に先生方の学びの保障もされている。先生方が単に時間外を減らすだけでなく、相互の相談ができるということまでを含めて働きがいにつながっているところを見せていただきました。そこから個人的に思うのは大きく2つで、やはりそういった学校のあり方を私たちも認めていきながら、働きやすさ、目標を持って減らしていくとともに、最後先生方の働きがいや、こどもにつながる場所も大事にしようというのが一点。これは欠かせないところです。もう1つは、そういうのをやるからこそ、行事とか時間の使い方など構造というところにも踏み込みつつ、学校の内発とか効力感を大事にしたいということです。教育委員会が大局の目標設定や必要なアウトリーチは多分やらないといけない。けれど、やはり学校で業務上のターゲットを決めて、この取り組みをやってこう減らしたから我々よくできたよねという「がい」の部分です

ね。これを学校で進めていただくところを促進したいと思います。ですから、今日の資料の中でいけば、6ページの「今後のフォローアップ」の最後にある「管理職向けのマネジメント等に関する研修」であって、研修をうつことは大事なのですが、リーダーの方々が聞く研修というよりは、相互の工夫や結果、そういったものを交流し合って、お互いの良い取り組みの共有・横展開、お互いの計画推進を次にまた考えていくということを促せるといいなと思っております。仮にご説明いただけるならば、マネジメント研修、今後こういったものを推進されるかをお伺いしたい。県で言えば、新任管理職研修、教頭研修で、昔からですかね、業務改善研修としてグループワークも多かった力を入れてきたと思います。そのような研修ともうまく接続しながら三田市の研修が行われるといいかなと思った次第です。もし情報があれば、お教えてください。

久保学校教育部長：まず、1つ目の働きがい大切にというところですが、それは先ほど申しました通り、働きやすさを作りながら、先生たちが先生たちしかできない、子どもたちの教育というところは先生たちしかできないと思っております。そこに気持ちが集中して、このやりがいというのは絶対あると思うので、そのやりがいもアピールしながらしていけたら感じております。2点目の1つは、学校の取り組みの促進の横展開というところでは、かねてから「勤務時間の適正化推進委員会」として10校ずつを集め、教育委員会事務局とで共働する会を開いております。全部で29校あるので、どの学校も3年間のうちに1回入っていただくという形です。毎年10校に推進していただき、その中でやってきた取り組みを皆さんで共有し、さらにそれを議事で残して全校に回します。各校だけの取り組みにとどまらず、全体で共有できるのが効率的であり、そういった横展開を図っているところです。また私たち事務局も参加しており、学校はこういうことで困っている、こういうことであれば進むといった意見交換もしていますので、その中で支援策といったものを各課所で考えながらやっています。あと、管理職研修につきましては、毎年、市独自でやっているのですが、例えば、人権に関するテーマや学校経営論に関するテーマ、次期学習指導要領に係る教授をお招きしてというような形でやっております。特に、このマネジメントや、健康の管理という観点からハラスメント対策の研修を今後展開していく。その中で、管理職のマネジメント能力を高めてチーム学校としての組織をさらに強化していくようにしていかなければいけない、と感じているところです。

大野教育委員：よくわかりました。当事者意識をもつ方をできるだけ多く増やしていくというところでレベルアップをいただければと。

ルーベッシュ教育委員：「学校と教師の業務の3分類」のところで、少しお願いというよりも現状こんな感じですよということをお話しできればいいかなと思います。学校運営協議会等を活用して地域と一緒にやっていってほしいということが書いてあると思いますが、春

休みに入った途端、私たち保護者のところでは地域コーディネーターさんと間に入りながら子どもたちとのいろんなやり取りが始まります。そう思った時に、学校は全く関係ないのかというと「やはり関係はある、先生たちにも知っておいてほしい」というのが、地域コーディネーターさんや私たち保護者の思いでもあります。先生たちの働き方をしっかりと実行していただきつつも、これはこどもたちのためであって教育現場が精神的にもタイプのにも豊かな場所になっていくことが目標だと思うので、そういった地域の方々や見守っている私たちが断絶される訳ではなくて、うまくつながっていく関係性というのも大事にさせていただけるといいかなと個人的に思っています。連絡調整というのは、やはり学校運営協議会が基本的にはこれからも窓口になっていく予定でしょうか。

久保学校教育部次長：今後も学校運営協議会を中心に地域コーディネーターさんをお願いして、特に地域ボランティアの方には、学校の中でミシンボランティアや図書ボランティアのように人手があればあるほどこどもに対して充実した教育ができるということをお願いをしています。委員のおっしゃるとおり、やはりウィンウィン関係にならないといけないと思っており、こどもは地域と家庭と学校が三位一体となって育成していかないといいなというふうに私たちも感じています。こどもたちが学校で学んだ力が社会の中に生きていく力になっていかなければいけないわけであって、やはり学校で学んだことが地域で生かされていかないと教育の意味がないのではないかと感じております。単なるボランティアに来てくださいと言うだけではなく、いかにこどもたちが地域の中で活躍できる人材となっていくべきなのか、そういった経験をさせていくのも、やはり地域の中だと思っておりますので、今後連携を深めていかないといいなと感じています。

ルーベッシュ教育委員：ありがとうございます。実際、ボランティアに入っておられる方々は本当にやりがいがあって、いい経験をさせてもらっていると皆さん思っておられます。今、ちょうどお互い様のような形で始まっているのかなと思います。結果的に、お陰様というか、お互いにウィンウィンになる形が生まれるといいなと思っております。

三木教育委員：このように具体的な計画が実行できるような形で出てきたということは、進みやすくなるのかなと思いました。学校訪問で感じているのは、チームでつながり、先生方が工夫されているということです。スマホのメールを使ってコミュニケーションをとりながら、工夫されているなとも思いました。ちょっとお聞きしたいのは、若い先生方が日頃悩みながら指導されていますが、その分、お仕事の時間も長くなるのではないかと思います。支援の必要なこどもさんも増えていますし、その分、先生方が悩まれながら、こどもたちの対応などに時間がとられてしまってくるのかなと思います。そういうことはどのように解決されているのか。工夫もしておられますし、チームでといったところもあると思うのですが、この業務の時間というのは、若い先生、年齢によって違い

があったりするのでしょうか。

久保学校教育部長：担任業務で言いますと、若いからといって、年齢によって変わりはありません。ただ、その他の学校の業務、校務がございます。ベテランがやった方がよい場合はベテランが、若い方がやったらよい場合は若い方がやるという形で当たっておりますが、その担任業務以外の校務で、重い軽いといった業務量を調整しながら、各学校で取り組んでいただいております。三木委員がおっしゃった通り、若い方というのは経験がないだけにいろいろ悩まれます。毎日の授業をどう展開していくか、いろんなこどもの問題が起こったときもどう対処したらよいのかわからないので時間が長くなったりします。その部分に関しましては、市教委としましては、教育研修所を中心に、若い先生方のフォローをさせていただいています。また、学校では、学校長を中心に、若い先生方をフォローするための組織を、学校によっては若い先生方向けの研修会を独自に実施され、その中で、授業づくり講座をベテランの方が開いたりして、チームとして若い先生方を育成しようといったところは、非常に強くあると思っています。三田市も全国の他市町と変わらず、今大量退職で、逆に若い方たちがどんどん入っていますので、特にそのあたりは、学校長をはじめ職員も意識しながら若い方の育成に努めているところではあります。

三木教育委員：量とは別にワークライフバランスといいますか、健康も大事ですし、若い先生方が長く働いてくださるというところのポイントにもなってくると思います。若い先生方が働きやすい環境づくりをよろしくお願いします。

田村市長：全員の委員からご意見ご質問が出ましたので、いったんこの項目についてはよろしいでしょうか。それでは、三田市教育委員会業務量管理・健康確保措置実施計画の策定については、本日、委員の方から頂戴しましたご意見等を参考にして、教育委員会でき取りまとめを進めていただきたいと思います。市としましては、三田市教育委員会と連携しながら、取り組んでいきたいと考えております。

（２）学校再編に関する学校運営協議会等での説明等について

（井上学校教育部長から説明）… 資料２

田村市長：今、事務局から「学校再編に関する学校運営協議会等での説明等について」説明がありました。これはあくまで学校運営協議会の意見であって、こどもの意見が直接ここに反映されているものではありません。そこを含めてご意見やご質問をお願いします。三田市におきましては、冒頭に私が申し上げた通り、令和７年度からこども大綱に基づく三田市こども計画がスタートしまして、いわゆるこどもの意見表明をしっかりと聞いてい

くことも含めて取り組んでいくことにしています。再編統合につきましても、大綱に基づいて進めていかないといけないというふうに思っております。そこについては、今日のレジュメには入っておりませんが、皆様のご意見とご質問をよろしくお願いします。

中野教育委員：先ほど市長も確認されました通り、学校運営協議会の意見ということでありますので、それぞれ学校の運営状況や抱えている課題を踏まえ、日頃から学校と協力して参画をしていただいている方々の意見として1つの方向性が出ているのかなという風に見ました。もちろんこどもの視点で、どういう風に考えているのかということについても、これは大事な要素でもあるし、保護者、地域の要素もある。さまざまな意見をたくさん収集することは大事なのですが、これを見せていただくだけでも、こういう風に考えておられるんだと、だいたいのがここに出てきていると感じました。こういう風に機会を捉えて聞いていただいたことで、三田の教育のあり方や、これからの将来を見通した願いや意見について考えていただく1つのきっかけになる良い機会だったと、まず感想として思いました。将来の三田を担う、日本を担う子どもたちにどういう環境が一番いいのかということを、やはり真剣に考えていくことがこれから大事だと思います。あくまでもこどもファーストで考えていくということが一番かなと。当然地域の発展も大事ですし、いろんな学校の取り組みや歴史も大事なのですが、こどもにとってどのようなのかという視点を、やはりずれないように、これから考えていかななくてはならない現実の問題と思いました。幼稚園がすでに統合し、実際に私たちも訪問させていただき、施設を見せていただく機会がございました。当時スタートしたばかりでしたので、その後、どういうふうに成果があがっているのかも、やはり大事なことかなと思います。三田市が抱える問題として「こどもたちの教育の環境をどう整えるか」ということを視点に幼稚園の再編が行われたと思いますので、その辺がもし分かっていたら、事務局に聞かせていただけたら嬉しいです。

神影幼児教育振興課長：市立幼稚園の再編統合としまして、令和6年度から広野・藍・本庄3つの幼稚園が「認定こども園みつば幼稚園」として、令和7年度から母子・高平・小野・志手原4つの幼稚園が「認定こども園ありまふじ幼稚園」として開園しています。保育の必要なお子さんの預かりを始め、3歳児クラスを新設したということもありまして、開園時の人数は、前年度の統合前の幼稚園を合わせた園児数よりも増えています。みつば幼稚園は54名から、ありまふじ幼稚園は29名からスタートをしています。3つの幼稚園、4つの幼稚園が、それぞれ1つの認定こども園として統合されたことで一定規模の園児数が確保できておりまして、より集団的な要素を活かした取組ができています。特に先生方からは、周りのたくさんの園児から刺激を受けることでこどもたちの主体性や協同性が育っている。たくさんのこどもたち同士の関係性ができていく中で、非常に大きな成長をしている姿が見られる。例えば、これまで1人ではなかなか行動ができなく

て先生のサポートを受けながら園での生活を送っていたこどもたちが、自分自身でできることが増えてきているといったことも聞いています。また、再編統合前は、地域から幼稚園がなくなるということの不安や心配の声をたくさんいただておりましたが、実際に新しい認定こども園ができたことで、自分たちの地域だけではなく園区内の他の地域とのつながりや保護者同士のつながりができてきて、結果的にすごくそれがよかったというお声など、非常に良いご意見をいただてしております。今のところ再編統合をしたことで、こういうことが困っているという具体的な意見は耳にしていません。1つの意見としましては、例えば、それぞれ統合した後の旧幼稚園跡地も使いながら、地域に各認定こども園が出かけて行って、アウトリーチ型の子育て支援やこどもたちの取り組み等を行う回数をできるだけ増やしてほしいといった意見は、私どもにも届いております。回数をいっぺんに増やすというのは園の年間行事の中でクリアすべき部分があるので、そこは園と相談しながら、できる限り充実していきたいと思っております。もう1つ、園区内のこどもたちのバス送迎も行っているのですが、当初、小さなこどもたちがバスに乗って園まで通うことに不安はないのか心配もあったのですが、実際には園児の皆さんも喜んでバスに乗って通園をいただてしていると聞いております。

中野教育委員：丁寧に教えていただきありがとうございます。幼稚園がなくなるということではなくて、統合をすること集まることで、それがそれぞれの地域の幼稚園なんだという風になかなか考えることが難しかったかなと思います。今のお話を聞いていますと、それぞれこども園のこどもたちが成長していくプラスの部分みんなで共有できていることがとても素晴らしいという風に思いました。決してそれが小学校、中学校とイコールにはならないかもしれないけれども、やはりこどもたちにとって何が一番大事なのかという視点をずらしては絶対にいけないということを、今の話を聞いて確信できたと思います。

ルーベッシュ教育委員：ちょうど今お話しいただいた報告は、働いている先生方の満足度がすごくあって、成果も見られるという話だったのですが、実際お子さんを預けておられる保護者さんとやりとりをする機会がありましたので、そこのお話を少しさせていただきます。実際に預けておられる保護者さんの満足度がとても高いです。やはりここに来てよかったなと思っておられる保護者さんは大変多くて、逆にその保護者さんたちはこういう良さをもっと他の人に知ってほしいなと思っておられるようです。やはり保護者さんの満足度というか、保護者さんが自分のこどもをここでこれだけ伸び伸びできているということを、もっともっと三田のお母さんたち、お父さんたちにも知ってほしいなというのを、うまく三田市から発信ができるような形があればいいなと思っています。すごく素敵な三田市の広報誌があるので、空いた所でもぜひ取り上げていただけるような機会があれば、こどもたちも楽しく通っている、保護者さんも安心して預けておられると

いうことをもっともっと多くの人に知ってもらえるような場所があればいいかなと個人的に思いました。よろしくお願いします。

神影幼児教育振興課長：私ども認定こども園を担当している部署としては、現場の認定こども園もですが、いかに知ってもらえるかということが今後の課題だと思っております。その取り組みとしましては、先ほど申し上げましたアウトリーチ型の子育て支援の取り組みを見てもらう。さらには、就学前の親子に集まっていただいて、子育て支援の取り組みと一緒に親子で体験してもらう。また認定こども園の存在自体を知っていただくために、例えば園庭を開放しておりますし保育室の開放もしておりますので、参加いただき、また来てもらって、そこで子育て支援の相談なども受けていただく。こういった取り組みを認定こども園の開園と同時に始めておりますので、この辺りを充実させていきたいと思っております。あと、ホームページ以外にそれぞれ園だよりを作っておりますので、これを地域の回覧も活用して認定こども園の良さを知っていただけるように意識して取り組んでいきたいと考えております。

三木教育委員：やはり否定的な意見として、学校がなくなってしまうという不安、学校を残したいという意見があったりします。再編されることで学校がなくなるというふうに、どうしてもイメージしてしまう方もいらっしゃるかと思います。先ほど跡地活用のお話が出ましたけれども、閉園されたいくつかの幼稚園が、今どのようにされているのかをもう少し教えてください。

神影幼児教育振興課長：閉園された旧幼稚園の施設につきましては、実は認定こども園ができる前か、そのタイミングに合わせて各地域の方々と相談しながら、その活用について取り組みを始めているところです。地域によっても様々ですが、先ほど申し上げましたように、それぞれの認定こども園が拠点となって出かけて行って、そこでこどもたちの保育を行っていくのが1つの活用になっております。それ以外に、例えば旧小野幼稚園はもともと選挙のときに投票所として使っていただいております、「小野松風まちづくり協議会」が新しく開設されてからは、まちづくり協議会の方でも旧小野幼稚園の施設を事務所として検討されておまして、私どもと一緒にどの部屋を使ってどんな形で事務所にしていくのか、今調整させていただいているところです。旧本庄幼稚園は地域のイベント、例えば夏祭りで活用いただいております。旧高平幼稚園は、小学校のこどもさんたちを対象にした寺子屋をもともと小学校の図書館などを使って行われていましたが、せっかくこのような施設があるからということで、この春休みから寺子屋を開始していただいているということで聞いております。単発的なイベント等で使っていただくこともあります。大きな動きとしては以上になります。

三木教育委員：なくなるという考え方ではなく、また地域の方々が跡地を利用して活発に活動されているということがわかると、安心というか、希望が湧いてくるのではないかなと思いました。ありがとうございます。

大野教育委員：三田の土地柄ということで、比較的多くのエリアで1小1幼稚園という時代が長くあって、その連携も頑張っておられたから、そういう意味で三田特有の考えないといけないポイントがあるのだろうなと思って聞いています。感想が2点です。今日はデータとしては慎重に読みましょうということでしたが、学校運営協議会での説明、私は個人的にはその説明の意義を認めるところです。また私の意見ですが、これからのこどもの育成ということを考えると、探究もそうですし、共創、争う方ではなくて「共に創る」の共創もいる。そういったこどもの力を身につけていくには、どういったサイズ感が適するかは大事なポイントだと思います。翻って学校運営協議会を考えると、政策的な立て付けは子どもの教育目標を共有する、仕組みを通じて協働するということから、こどもの新しい学びとして探究と共創をどういったサイズで考えるのか、地域も支援しながら、どういった工夫ができるのか、こういったこどもに届くまでの議論を、今後頑張っていけたらいいかなと思うところです。これが一点です。

あともう1つは、今日はこの資料を見せていただいて、まちづくりとセットという意見が一定数あります。個人的な意見ですが、この中で学校の再編ということを考えていったときに、今回、統合の手法というところでいろんな意見をいただきましたが、私たち行政の側からすれば、その統合にどういった時間幅であるのかという情報提供をしていく必要があると思います。時間幅がどれくらいで、まちづくりとセットですから、例えば、再編で統合することになったときには、学校の先生方は普通にやっておられることです。それぞれの学校の特徴を残しつつ、新しい学校の形を作り、校区コミュニティが支えるという、統合したけれども、みんなで1つの校区地域となる。そういうところを。街づくりとセットですから、そこに私たちは視野を置いて、こういう議論をしているときから、そういうものですよということを伝えていきながら、考えていくことにつなげていけばいいのではないかなと思っています。そういったところで、多くの方に情報を持っていただいて、そして、市も伴走しながらこの問題を考えていきます、というところを今後作っていけばいいと思った次第です。

田村市長：大野委員がおっしゃったように、今後は市と教育委員会がしっかり連携をして取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

加嶋教育長：今ご意見いただいたこともそうですし、今日提示しました学校運営協議会の意見は、本当にもっともな意見だと思っております。自分の時にあった学校がなくなるといった不安など十分に理解しています。これから、こういったご意見を踏まえながら、8年度か

らの取組について十分検討していきたいと思っています。市長からもお話がありましたが、学校再編はこどもたちの教育環境をいかに良くするかというところが、一番大きなポイントになりますので、教育内容でありますとか、あるいはスクールバスの運行など、さまざまなご意見もございましたので、こういうことも踏まえながらこどもたちにとって良い教育環境をつくっていくという視点で取り組んでいきたいと思っています。市長部局と一緒に考えていくというのは市長と同じですので、よろしくお願いします。

田村市長：再編につきましては、改めて委員の方々からご意見をいただきました。私は直接タウンミーティングで中学校に行ったり、統合したみつば幼稚園に意見を聞きに行ったり、「こんにちは市長です」というような形で行ったり、中学生の意見を聞きに行ったり、先日もルーベッシュ委員の所に行った際、保護者から意見を聞きました。その内容については、今日の趣旨と少しずれますので申し上げますが、私の感想としては、教育長を含め各委員がおっしゃったこと、思っておられることとほぼ一緒なのかなと思っています。学校再編に関する事項については、あくまで中心はこどもだということをブレずにしっかりと取り組んでいきたいと思っています。先ほど大野委員からありましたように、時間軸を含めたところの議論と一緒にやっていきたい、同時にやっていかないといけないと思っていますのでよろしくお願いします。それでは今日予定しておりました2件の議事をすべて終了いたしました。本日は皆様から活発なご意見を頂戴いたしまして、中身のある会になったと思っています。感謝申し上げます。それでは事務局の方にお返しします。

上島次長：皆様、本日は長時間にわたり熱心にご議論いただきましてありがとうございます。来年度の総合教育会議におきましては、現在の「第2期三田市教育大綱」の推進期間が令和8年度までとなっており、次の「第3期の教育大綱」の策定に向けた協議をお願いしたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。それでは、本日の会議はこれもちまして終了いたします。